

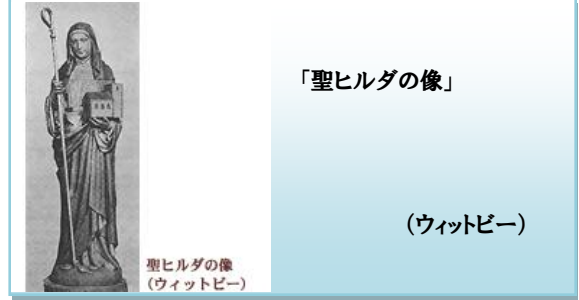
11月17日

修院長ヒルダ

Hilda

(614~680.11.17)

～ホウィットビの女子修院長～



イギリスのノーサンブリア王家の出身である彼女は、エドウィン王の甥の娘として生まれる。

627年の復活祭、彼女が13歳の時にヨーク司教のパウリーヌスから洗礼を受ける。

649年、ヒルダの姉はそのころバリ近くにあるシエルで修道女をしていた。そのためヒルダも同じようにシエルに向かおうとしたが、司教アイダン(エイダン)に呼び戻され、ハートルプールの修道院長に任命される。この修道院は司教アイダンによって聖別されたものであるが、ノーサンブリアの国で誓約した最初の婦人であるヘイウによって建設されたものであった。

ヒルダはハートルプールで修道院長生活を送った後、ホウィットビに男女の修道士のための修道院を建てる。この修道院では修道者規則の原則に非常に厳格に従った。またこの修道院は神学と文学で有名になっていき、ベヴァリのヨアネスや宗教詩人カイドモンらを輩出していく。

彼女のもとには修道院の壁を超え、彼女を「母」と慕う多くの人たちがやってきた。彼女は王侯から庶民にいたるまで、あらゆる人たちの賢明な相談役ともなっていた。自分に従う人たちには聖書を読む機会を多く与え、また司祭たちには聖書の勉学をすすめていった。

そんな折、664年に彼女のいるホウィットビで教会会議が開かれる。議題にはケルト教会の慣習、特にケルト教会独自の伝統に従ったものについて、ローマ教会としてどのようにすべきか、というものも提出されていた。彼女は懸命にケルト教会の慣習を守るために努めたが、会議の決定は彼女の意に反して、ケルト教会の慣習をローマ化するというものだった。しかし彼女はその決定を素直に受け入れたという。

彼女は七年間の病気による試練を受け、天に召されていたが、その日、少し遠い場所にあるハックネスと呼ばれる修道院で、ベグという修道女がヒルダの死を幻視によって示されたという。彼女はヒルダが召されたとき、鐘の音を空中に聞き、すべてのものが上からの光で満たされるのを見たと言われている。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたの恵みによって聖霊の愛の炎をその心に燃やした修院長ヒルダは、公会の燃えて輝く光となりました。どうかその信仰と愛によってわたしたちを燃え立たせ、光の子として常にみ前を歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン